

剣、立山周辺 5/2~5

武部 慎

当初は4月29日から矢野さんと入山する予定であつたが、僕が介かいをしてしまひ結局断ってしまった。どうもすみません。5月2日は雨袴のままで、3日から行動をきこつて二日の朝に出発した。

5/2 ●

天気が悪いだけのこととはあって、アルペンル一人は比較的すりていた。ロープウェイだけはさすがに待たされた。室堂の視界はさほど悪くなく、十分に天場に行けた視界であり安心した。室堂へ雷鳥沢向は地形が複雑でいや大迂回である。天場は雷鳥沢出合であるが、一ノ越に向けて出発する。室堂山荘からスキーで滑降を開始する。スキーが滑らなくて左の頃にさまざまテントが見えホットする。夜はテントの中が洪水になり、大変だ。た。

5/3 ●, ○

思、たより天気の回復が遅く1日中停滞。夕方に温泉に入りに行、た。ものすごい吹雪で小屋迄の往復が心配になる程だ、た。でも、キジも打たれしと思ひ完全装備で小屋に行、た。

5/4 ○

寒くてあまり寝れなか、たせいか、なか本が起きた。少し出遅れる。天場から雷鳥沢出合い迄のほとんどの斜面を滑り、シールを付けてさあ登るぞと踏み出すと、友人とスキーがはずれる。ハリスは検討して、ビンディングに付いた氷が原因とちかりホットする。登りながら雪の状態は、氷の上に新雪というやうなコンディションとなる。3分の2はスキーで登れると思、てたが、結局半分しか登れなか、た。ツボ足のトレースかばかり左にそれでいたので、ツボ足たてトレースに戻るのに又時間的にロスしてしま、た。剣沢をこのまま滑れば三ノ窓、小窓のどちらかは行ける。でも真砂沢を滑べり

たか、たからアイゼンをはき、スキーをザックに付けて再び登る。稜鏡はアイスバーンであり別山迄来たもののここからスキーを付けて……なんてとんでもない。山頂でシリアイゼンを付けて、アイゼンで真砂沢コル迄アイゼンで下る。急斜面のアイスバーンで緊張する。コル迄来ると先行パーティが滑べ、その後があり、一部表面の新雪が付いていた所がありハヤ太気がすす。こちいのは始めの15m、斜滑降から1回ターンちるが、次のターンができ太い。以外と新雪は重く、下部がアイスバーンで困、てしまい少し斜滑降で行、てしま、た。よけいに急に止、てはると自分のスキーの幅で新雪ごとそのままの姿勢で滑落した。ザックのサイドに付いてはビックルがブレーキに本、てくれて加速はしなく、10m程で止、た。ここはもう斜度はないが、アイスバーンとなんとかターンできず堅さのバーンとのまじう。ひやひやしあがる、両手でバランスを保つつつターンをくり返すがなかなか高度は落ちない。100m高度を下げるとアイスバーンはなくなり安心し快的に飛ばす。3分の1も滑べると雪は湿、压く重く走ってく。途中に先行パーティもいた。あ、という間に下部に来た。もうぐぢやぐぢやの雪、クレバス、落石、デブリと危険度は増しきたが、目の前に真砂沢のテントが見えるかうそんを不安は本か、た。

真砂のテント場の台地で休み本がり、充実感とこれからを考える。ぐぢやぐぢやの雪だから、二股迄の途中で剣沢に落ちないだろか。とりあえず、二股迄、中間地点（ハレ丁合乗越への分岐）迄行く。剣沢の流れは途中から顔を出していて、そつ脇をトラバース気味に進む。斜度はほんとなくてもや。は。リスキ一は速い。二股迄右岸沿いに来て、ここで剣沢を渡る。スノーブーツは一面の雪だ。たつで心配はいらなか、た。シールを付けたて登りにかかる。三ノ窓雪渓出合に来てビックリした。三ノ窓雪渓は、下部半分一面デブリである。それも今日のデブリである。北股に入り登、て行くと左から音がし、雪つかまりが落ちてきた。音の割には大したこもとなくホッとする。結局、小窓雪渓出会い迄來ることに決めた。小窓は見えなか、仙人山、池ノ

平山は真白で、ひつが滑で、てみようと思う。

さて、今から黒部ダムに戻り、て最終に間に合うだろうか。剣沢小屋に泊、た方が確実なのではなかろうか。この時期、内蔵助平へ黒部ダム両が未知数となり好奇心から行、てみることにした。黒部川迄スキーツラマく使えれば、前に合う時間である。二股迄は登、てきた自分のトレスを使いアツといふ前に着く。ハシゴで谷を越の登りがしんどい。後を見れば仙人山が美しい。汗だくだくに汗、て登る。

寒くて寝れなか，た。羽毛服は、ぬれたりてドランニ
に左，てりて、着方方が暖かか，た。寒い夜は長い。

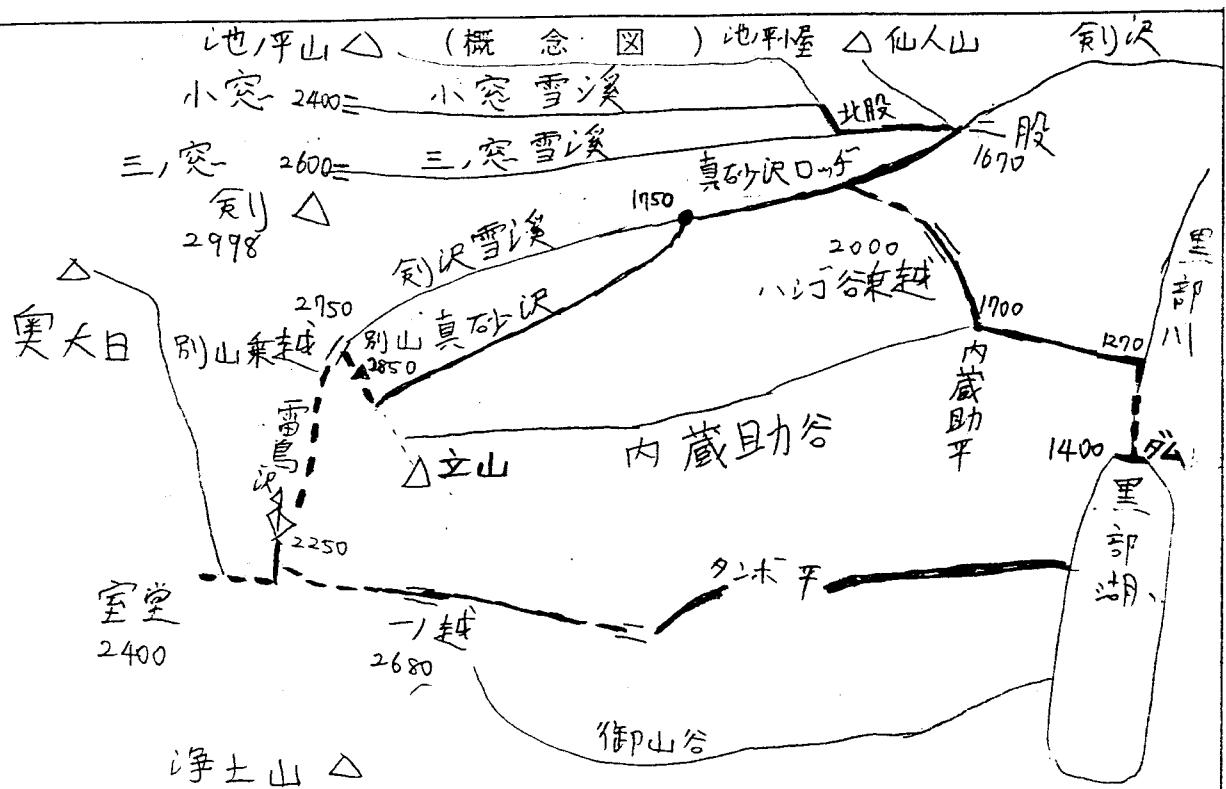
階段を上了靴音で目を見まし、あせ、て準備する。その音は観光客の第一陣ではなく、近くに泊、た登山客だ、た。黒部ダムから黒部湖へ向う。まだ観光客がひまつむの土は自動車がたくさん通り、ゴミ収集、今日の準備とあわただしい。連休最後の日とあ、て、アルペンルート、ダイヤは臨時が本く、結局室堂に9時半に着く。又、室堂山莊へ向う、谷沿いを滑り天場に到着。テントは飛ばされたりてあ、て良か。左、隣のテントはもう出発していい。僕はテントも出発して、下山又はどこかに向、ていふのに僕はこれから朝食を作り出す。ラーメン、みそ汁、ほうれん草のごまえ、海藻サラダ、テルモスの紅茶…。つまりは残り物の一オノハレード。その間に、シール、羽毛服などを持ち出す。食、た食。大。うまか、た。まだいきなりと滑りた、なあと思いつつ、撤収する。

室堂から乗物で帰ろうか、とも思、たかー、越迄もう一時間だからと思い、元気張、て登ることにする。さすがに、寝不足と、きのうの疲れにフルガックはきつい。や、と一人越に着く。御山谷は大きく美しい谷であるが、湖に出てからトラバースで何本も技派を渡すところが未知数。それで、一般的な東一ノ越、タンボ平コースを滑る。東一ノ越手前のトラバース道は、スキーをはずし夏道を行く。東一ノ越直下は急であるが、思いき、てターンをする。雪はすでに重く、降りれば降り程ターンがむずかしくなる。へとへとに左、てタンボ平に着く。前のバーで人に追いかけて、彼らは黒部平駅に向か、て登、てい了。登るのいやだ友あり、黒部湖へ向か、て滑る。思、たよりも樹林は薄く黒部湖畔に着く。（かんは谷橋の一つの小さな谷）朝通、た黒部ダムの上を歩く。今は車の替わりに観光客がたくさんいる。

5/2 大町(11:30)^(12:00)—扇沢(13:00)—室堂(15:00)⁽¹⁰⁾—靈鳥沢(15:45)

5/4 天場 5:50—別山乗越(7:50)^(8:15)—別山(8:45)^(9:00)—真砂沢上(9:30)⁽²⁰⁾—真砂沢天場(10:00)^(11:00)—二股(11:20) —北股終点(12:30)⁽⁴⁵⁾—二股(13:00) —ハシゴ谷乗越(14:30)⁽⁴⁵⁾—黒部川(16:00)⁽¹⁵⁾—ダム(18:00)

5/5 室堂(9:30) —天場(9:55)^(11:50) ——越(12:20)⁽⁴⁵⁾ —東一ノ越(2:15)⁽²⁰⁾ —黒部湖畔(15:00)⁽²⁰⁾ —黒部ダム(15:40)



5月4日 真砂沢滑降開始 ハシゴ谷立山